

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和07年10月07日

計画の名称	京都府内における鉄道との結節点におけるバリアフリー化の推進（防災・安全）													
計画の期間	令和03年度～令和05年度（3年間）											重点配分対象の該当	○	
交付対象	京都府													
計画の目標	京都府域の鉄道との結節点においてバリアフリー化を推進し、子どもから高齢者まで暮らしやすいまちづくりを支援する。													
全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）		157	A	157	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / （A＋B＋C＋D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		R3		R5末
1	JR亀岡駅及びJR八木駅周辺において安全・快適な交通環境を創出することでバリアフリー化対策割合を増加させる。			
	バリアフリー化対策割合（％）＝バリアフリー化対策面積（㎡）÷JR亀岡駅及びJR八木駅周辺土地区画整理事業区域内における駅前広場整備面積及び都市計画道路の歩道面積（㎡）×100	0%	%	100%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
道路事業	A01-001	街路	一般	京都府	間接	組合	市町村 道	改築	亀岡駅北地区	区画整理 17.1 ha	亀岡市						50		-
	A01-002	街路	一般	京都府	間接	組合	市町村 道	改築	八木駅西地区	区画整理 10.5 ha	南丹市						107		-
											小計						157		
											合計						157		

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
土地区画整理事業の事業区域を有する２市(亀岡市、南丹市)と本整備計画策定主体である本府の区画整理主管課において相互に調整を行い、評価を実施	令和７年９月
	公表の方法 京都府HPにて公表
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<p>土地区画整理事業の実施により、JR亀岡駅及び八木駅西の土地区画整理事業実施区域内におけるバリアフリー化の目標は達成された。これにより、本計画の目標としている「鉄道との結節点においてバリアフリー化を推進し、子供から高齢者まで暮らしやすいまちづくりを支援」することができた。</p> <p>【交付金事業の効果の発現状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A01-001：亀岡駅北地区の土地区画整理事業の実施により、都市計画道路亀岡駅北線、駅北余部線が完成し、駅北口の利用者が安全で安心して利用できる歩行空間を構築することができた。（$A = 19,385\text{m}^2$, $L = 953\text{m}$） ・A01-002：八木駅西地区の土地区画整理事業の実施により、駅前広場及び都市計画道路八木西線、八木駅西口駅前線が完成し、駅西口の利用者が安全で安心して利用できる歩行空間を構築することができた。（$A = 5,182\text{m}^2$, $L = 612\text{m}$）
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	<ul style="list-style-type: none"> ・A01-001：亀岡駅北地区では、駅北広場および都市計画道路歩道のバリアフリー化を進めることで、南北連絡通路や駅北側バス停、保津川下り乗船場へのアクセス性が向上した。これにより、駅南側の混雑が緩和され、交通結節点としての機能強化が図られた。 加えて、駅北側の利便性と安全性が高まり、地域の住環境の改善にもつながった。これらの整備は、地域住民のみならず、京都府立京都スタジアムの観客や観光客など、多様な利用者のニーズに対応するものとなっている。 ・A01-002：八木駅西地区では、駅自由通路の整備にあわせ駅前広場および都市計画道路歩道のバリアフリー化を進めることで、JR八木駅へのアクセス性が向上し、駅利用者の利便性が高まった。特に、駅西側からの動線が短縮されたことで、通勤・通学者の移動効率が改善された。 また、歩行者動線の明確化と安全な通行空間の確保により、駅周辺の安全性が向上し、安心して利用できる環境が整備された。これらの整備は、地域住民の生活利便性を向上にも寄与している。
特記事項（今後の方針等）	
<p>本計画の完了後も引き続き、社会資本整備総合交付金や個別補助制度を活用し、土地区画整理事業の実施と合わせた駅周辺での都市計画道路の整備やバリアフリー化を進め、子供から高齢者まで暮らしやすいまちづくりを推進します。</p>	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	バリアフリー化対策割合（％）		
	最 終 目標値	100％	
	最 終 実績値	100％	